

# 臨床病院にとっての図書室

愛知県厚生農業協同組合連合会厚生病院

循環器科部長 鷹津 文麿

臨床を宗とする一般市中病院にとり、図書室は最新の医療機器、設備に比べて地味な立場にあり、最近の厳しい医療情勢を背景に、ともすれば直接医療収益に関係がないことを理由に、費用の節減の対象になりがちである。しかし、いかなる医療機器もこれをどういった場合に使用するか、あるいはどうやって駆使するか、得られた情報をいかに解釈するか、また、果たしてそういった機器が本当に必要であるのかどうかという評価は、読書を中心とした情報により医療従事者がその頭の中に整理するしかなく、図書および図書室の充実は必要不可欠である。機器とは無関係のレベルにおいても、医療従事者の知識の向上は日常診療のレベルの向上のためにぜひとも必要であり、設備、機器のみならず、図書室の内容が病院の評価の対象にされてしかるべきである。

以下に臨床病院の図書室として要求される機能をあげてみる。

## 1. 最新の医学情報の提供

主に新着の専門雑誌に掲載された原著による。医学の分野にもよるが、一つの専門分野に関する雑誌は国内、国外をあわせると10以上になるのが普通である。これを個人で購入し、保存するのは経済的にもスペース的にも不可能であり、病院図書室に求められる機能の第一のものとして、これら専門誌の購入と保管がある。臨床病院の第一の目的は無論、質の高い日常診療であって、臨床の場で Trial を行うべきではなく、この点で最新の医学論文の内容というものはまだ確立されたもの

とは言いがたいために、一つの論文に記載されたからといって、その内容を直ちに日常診療に取り入れることは少ない。しかし、同一のテーマに関して複数の論文が一致した結論を出しており、かつそれらの論文に記載された方法論が正しいと思われるものであれば、その結論は一応正しいとして、日常臨床に応用し始めねばならない。また、新しい検査法、治療法の意義をいちやく理解することにより、新しい機器の導入の臨床的意義を評価し、かつ、導入すべきか否かの判定にも、最新の医学情報を常に頭の中に整理しておくことができる。

## 2. 文献の検索、調査

医学上のある事項に関して最新の情報を、key word、index wordなどから、どの雑誌のどこに記載されているか、その文献の要旨はどういったことか、などに関してはコンピューターを用いた検索システムが現在何種類も存在し、こういったシステムのいずれかを備えるべきである。ただし、こういった文献検索システムの多くは、abstract、summaryなど、文献の内容そのものについては限られた情報しか掲載されておらず、専門雑誌自体の保管もあわせ行わねばならない。一つの論文を読んでいて、その末尾に記された文献そのものを読む必要が生じることがよくある。また、引用された論文の中に、該当する内容の記載のないことも時として存在し、原著そのものの保管は、スペースの点で大変であるが、今のところ必要と言わざるを得ない。文献の検索、調査に関する機能

はそのまま学会活動や論文の執筆にあたって必要であり、ある程度以上のレベルの臨床病院になくてはならない図書室機能である。原著をすべて限られたスペースに収容することは、専門雑誌が著しく増加している現在不可能であり、何年分の専門誌を図書室内に置いておくかは各々の病院の事情によるであろうが、少なくとも主要雑誌と言われるものは、10年分は直ちに閲覧可能な状態にあって欲しいものである。

### 3. 卒業教育（生涯教育）

最先端の医学情報は専門誌に掲載され、1～3年遅れてReviewなどを主体とする教育雑誌（総合誌）に特集などのかたちで掲載され、一方でText bookの新しい版にも記載される。こういった“常識”となった情報は、研修医をはじめとする新入職員のみならず、専門をややずれた他の医療従事者にとり、知識を更新するために必要となる。日常臨床の充実には、むしろ最新の専門誌による

医学情報よりは、こういったReviewを中心とした教育雑誌、総合誌が有用であり、病院のレベルを問わず図書室に備えるべきものである。ただし、こういった総合誌の内容は3年程度で一新され、繰り返し同じテーマが掲載されるのが常であるから、図書室内での保管は長くとも数年で充分であろう。

以上の備えるべき機能と少々異なる事項として、大学病院など研究を主とする施設の図書室と違って、利用者が第一線の医療従事者であるために、利用時間が主に夕方から夜になるという困った事実がある。このため、司書による図書、図書室の管理を厳重に行おうとすると、担当者が変則的勤務をするか、夜間の利用時間の制限など、利用者の不便をあえて無視するかのどちらかとなる。こういった夜間の図書室の管理についての解決策は、現時点でこれといったものがなく、将来、模索すべき課題であろう。